

■コメント

1. 感染性胃腸炎

定点当たり11.4人とやや増加しています。4月に入ってから増加傾向で推移しています。安芸区23.0人と特に多く、東区17.7人、安佐北区16.0人、佐伯区11.7人、中区10.7人となっています。

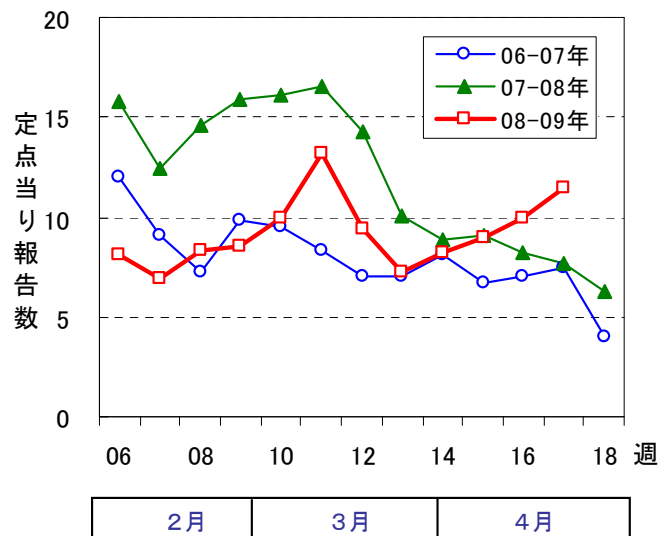
2. インフルエンザ

定点当たり4.32人とやや減少しています。しばらくは小規模な流行が続くと考えられますのでまだ注意が必要です。

3. 腸管出血性大腸菌感染症

第17週に1件報告され、今年の累計は6件となっています(昨年同時期の累計は1件)。腸管出血性大腸菌は、熱には弱いですが、感染力が強く、わずか数十個でも感染すると考えられていますので、手洗いの励行に心がけるとともに、生肉などの食品の取扱いには十分注意する必要があります。

感染性胃腸炎



■5類感染症報告状況(定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1間)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1間)	発生記号
インフルエンザ(注2)	160	4.32	3.67	◀	ヘルパンギーナ	-	-	0.08	
咽頭結膜熱	11	0.46	0.29		流行性耳下腺炎	17	0.71	0.80	◀
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	47	1.96	1.82	◀	RSウイルス感染症	-	-	0.03	
感染性胃腸炎	274	11.42	8.45	◀	急性出血性結膜炎	-	-	-	
水痘	35	1.46	1.87	◀	流行性角結膜炎	10	1.25	0.50	
手足口病	-	-	0.67		細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
伝染性紅斑	9	0.38	0.22		無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
突発性発しん	14	0.58	0.72		マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.34	
百日咳	4	0.17	0.09		クラミジア肺炎(注3)	-	-	-	

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ↖ ↙ 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

横ばい ⇨ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注1) 過去5年間の同時期平均(定点当り)
(注2) 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く
(注3) オウム病を除く

■1類～5類感染症報告状況(全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
2	結核	4	64	男性(50歳代)・1人、男性(60歳代)・1人、男性(70歳代)・1人 男性(80歳代)・1人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	6	女性(10歳代)・O157

■5類感染症報告状況の推移(定点把握対象分)

		インフル エンザ (注1)	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レ ンサ 球菌咽 頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウイル ス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺 炎	クラミ ジア肺 炎 (注2)
報告数	第13週	160	5	72	175	35	1	4	17	3	-	11	1	-	9	-	-	1	-
	第14週	133	3	53	196	51	-	15	9	1	-	21	-	-	7	-	1	1	-
	第15週	126	1	55	215	37	-	10	16	5	3	21	2	-	10	-	-	2	-
	第16週	181	1	58	238	41	-	7	21	2	-	20	-	-	5	-	-	1	-
	第17週	160	11	47	274	35	-	9	14	4	-	17	-	-	10	-	-	2	-
定点 当り	第13週	4.32	0.21	3.00	7.29	1.46	0.04	0.17	0.71	0.13	-	0.46	0.04	-	1.13	-	-	0.14	-
	第14週	3.59	0.13	2.21	8.17	2.13	-	0.63	0.38	0.04	-	0.88	-	-	0.88	-	0.14	0.14	-
	第15週	3.41	0.04	2.29	8.96	1.54	-	0.42	0.67	0.21	0.13	0.88	0.08	-	1.25	-	-	0.29	-
	第16週	4.89	0.04	2.42	9.92	1.71	-	0.29	0.88	0.08	-	0.83	-	-	0.63	-	-	0.14	-
	第17週	4.32	0.46	1.96	11.42	1.46	-	0.38	0.58	0.17	-	0.71	-	-	1.25	-	-	0.29	-
全国	第15週	4.06	0.22	1.60	7.72	1.65	0.08	0.15	0.69	0.04	0.04	0.59	0.12	0.02	0.47	0.04	0.01	0.34	0.01
	第16週	4.10	0.22	1.91	8.48	1.47	0.08	0.12	0.72	0.05	0.05	0.60	0.11	0.01	0.52	0.02	0.03	0.44	0.02

(注1)鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く (注2)オウム病を除く

■新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者 年齢	性別	発症 年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	0	女	2009/03/13	咽頭拭い液	インフルエンザA(H1)型
インフルエンザ	22	女	2009/04/06	咽頭拭い液	インフルエンザA(H3)型
インフルエンザ	8	女	2009/03/11	鼻汁(拭い液)	インフルエンザB型
感染性胃腸炎	9	女	2009/02/24	糞便	小型球形ウイルス(SRSV)

【参考】新型インフルエンザ情報

WHOは、新型インフルエンザの警戒レベルを、フェーズ5へ引き上げました

メキシコや米国で発生した豚インフルエンザ(H1N1亜型)は、患者が増加して人から人への感染が認められることから、WHOは世界的なパンデミック(大流行)となる可能性があるとして、4月27日、新型インフルエンザの警戒レベルをフェーズ3からフェーズ4へ引き上げました。その後さらに世界各国に流行が拡大していることから、4月29日、警戒レベルをフェーズ5へ引き上げました。

現在国内では、豚インフルエンザの患者は発生していません。これは、国の新型インフルエンザ対策行動計画においては、「第一段階(海外発生期)」に該当し、「新型インフルエンザ」が海外で発生したことを意味します。

また、国は豚インフルエンザ(H1N1亜型)を感染症法における「新型インフルエンザ等感染症」に位置づけました。

豚インフルエンザは、A型インフルエンザによって起こる豚の呼吸器疾患で、豚においては、定期的に流行を引き起こしています。人への感染はまれですが、米国などで豚から人への感染事例が報告されています。また、散発的な人から人への感染事例もあり、過去、小規模な集団感染も発生したことがあります(米国疾病管理センター)。

しかし、今回の発生では、過去の事例と比較すると患者数が多く、広い地域に広がっていることなどが特徴です。このウイルスはAソ連型と同じH1N1亜型ですが、遺伝子構造が異なっています。

現時点では、このウイルスの感染力や毒性については不明な点も多く、現在WHOはさらに詳細な調査を行っています。今後のWHOや厚生労働省が随時公表する新しい情報に注意してください。

★新型インフルエンザについてのお問合せ

平日:各区保健センターまたは健康福祉局保健医療課(電話504-2622)

夜間、土・日・祝日: 健康福祉局保健医療課(電話245-2111 市役所代表)

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.jp

2009年第17週(4月20日～4月26日)